

子どもたちが、様々な国の文化、国籍にとらわれず理解し支えあい、 認め合えるような環境、関係を構築するために

前ソウル日本人学校教諭

神奈川県横浜市立二谷小学校教諭 原田 克巳

キーワード：在外教育施設、ソウル、国際理解教育、オンライン活用、歴史教育

赴任校の概要（2021年7月27日現在）

学校名・日本語：ソウル日本人学校

学校名・現地表記：Japanese School in Seoul, 서울일본인학교

<http://www.sjs.or.kr/>

1. はじめに

本校には日韓両方の国籍をもつ子どもたちも多く在籍している。父親、または母親が韓国籍で、自宅や学校外などは韓国語を使って生活している子どもたちも多くいる。また、幼稚園は現地の幼稚園に通っていたり、小学校の途中まで韓国の学校に通い転入したりしてくる子どももいる。様々な家庭環境の中で生活しているため、日本に対してもあまり良いイメージを持っていない子どもたちもいる。一番印象に残っているのは、1年目に担任した子どもとのエピソードがある。現地の学校との交流会の際、日本と韓国の国旗を振ってお出迎えやお見送りをすることが恒例となっている。ある子は、いつも韓国の旗を2本持っている。日本の旗を渡してもかたくなに拒む。そこで、話を聞くと「日本は韓国に悪いことをしたんだよ。だから日本は嫌い」ということだった。

このように、ソウル日本人学校に通う子どもたちは、保護者を含め様々な環境で生活をし、様々な考えを持っているのが現状である。そこで、どちらが正しいとかどちらが間違っているかを白黒つけるのではなく、互いの考えを認めることが大事だと感じた。このことは国際理解の基本でもある。またこの考えは、これから世界に羽ばたいていく子どもたちにとってとても大切だと思い今回研究のテーマを「子どもたちが、様々な国の文化、国籍にとらわれず理解し支えあい、認め合えるような環境、関係を構築するために」に設定した。

2. 実践

やはりお互いの国のことをよく知ることが上記テーマの第一歩だと考え、総合の学習と社会科の学習、学校・学年行事など一年を通して子どもたちに韓国の良さを味わえるように取り組んだ。

（1）総合的な学習の時間

「世界にはばたけ4年生」

オンラインで様々な学校と交流を通して、自分たちの住んでいる韓国の良いところを調べ、調べたことを日本の学校や世界の日本人学校へ発信する。また、それぞれの国の文化や良さを教えてもらう。これらの活動を通して、韓国の文化の良さはもちろん、日本やほかの国の文化の良さも味わえるようにした。

方法：Microsoft Teams を活用してオンラインにて交流会を行う

交流校：



横浜市立小山台小学校

ブサン日本人学校

パース日本人学校

台中日本人学校



 **世界にはほたけ！！** 
4年生！

☆今までの学習の流れ☆
ニュースなどを見ていると・・・韓国と日本に、もっと仲良くなってほしいなあ！！
世界に韓国の良さを発信したいなあ・・・。
「韓国の人は、とてもやさしいし、とても素敵なおとなになあ」

私たちにできることはないかな！？

日本や世界の小学生に韓国の良さを伝えて、それをきっかけに色々な人に韓国の良さを知ってもらおう！

おうちの人や地域にもつながるかも！？

○日本や世界の小学校の子どもたちに良さを伝える！

- ① まずは、ソウル日本人学校について知ってもらおう！
→ 実行委員会を中心にVTRを作成！
※作ってあるので、すぐにも送ることができます！！
- ② テレビ電話で、一度つなげてお互いに聞きたいこと知りたいことをリサーチする。
※複数の学校で可能な場合は、同時にテレビ電話をつなげると嬉しいです。
- ③ グループに分かれ、韓国の良さをインタビューしたり、調べたりしていく！
→ 明知小学校の生徒にインタビュー
→ 学校の先生にインタビュー
→ 実際に自分で行って調べてみる
→ 本で調べる など
- ④ 調べたことをまとめ、発表の準備をする。
ロイロノート
パワーポイント
模造紙
スクラッチ など
- ⑤ プレ発表会をして、内容をより改善していく！（学校内）
- ⑥ 発信！！（それぞれの学校へ向けて）
→ テレビ電話を通して
※複数の学校で可能な場合は、同時にテレビ電話をつなげると嬉しいです。
※予定なので、子どもたちからの聞きたいこと、知りたいこと、交流したいことなどのリクエストがあれば、変わっていくこともあると思います。

ねらい
国際理解（他国の人々や文化に親しみ、関心を持つことができる）
ことと同時に、自分たちの住んでいる地域についての良さを改めて感じる。

(2) 社会科の教材開発 朝鮮半島のために働いた「浅川巧」にクローズアップした社会科の学習

4年生の学習単元の県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する 活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する単元について、韓国で活躍し多くの韓国の人々に愛されている「浅川巧」について取り上げ学習を進めるようにした。

○学習のねらい

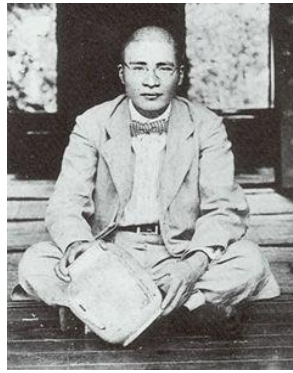
山の緑化、朝鮮半島の文化の良さを守り、伝えていったことについて聞いたり、調べたりすることを通して、韓国発展に尽くした浅川巧の働きや願い、工夫や努力について理解し、それによって韓国の人々の生活が向上したことを考えるようにする。

○学習にあたって

約120年前に当時の朝鮮にわたった浅川巧とその取り組みに焦点を当て、子どもたちの歴史的な見方をはぐくんでいきたい。社会を学習していく上で歴史的なものの見方、考え方を育てていくことは重要である。今後の歴史的学習に役立つように、子どもたちがより実感的に分かることができるように、学習の方法から探っていった。また、複数の絵図資料を丁寧に見比べたり、人とかかわりを通したりして、じっくり事実を見つめて根拠を明確にしていけるようにした。それらのことによって、どうして山の緑化に努めたのか、朝鮮の文化を大切にしていたのか、先人の努力や工夫・願いなどに迫るように学習を進めた。

○学習の方法

「浅川巧」については、様々な書籍や資料が残っている。その資料を活用するとともに、日本にある浅川巧博物館の館長とつながり、テレビ電話を使って子どもたちに講義をしてもらったり、子どもたちの疑問や質問に答えてもらったりした。



韓国の山と民芸を愛し、韓国人の心の中に生きた日本人。

ここ韓国の土となる。(1984)

(3) 現地文化の体験

韓国や日本の伝統に親しむ

学習発表会では、韓国と日本の民謡に挑戦した。日本の民謡は、ソーラン節／鹿児島小原節／小諸馬子唄／八木節を様々な楽器を使い演奏した。韓国の民謡は「蔚山アガシ」という曲に挑戦した。この曲に乗せて歌を歌ったり、「チャング」（韓国の楽器）を使って演奏をしたりした。今回は保護者も巻き込み、子どもたちに日本の民謡や韓国の歌について教えてもらった。





チャングは朝鮮半島に古くから伝わる打楽器。チャングは宮中音楽のみならず農楽と呼ばれる農民の音楽の両方で使われてきた。チャングは砂時計のような形をして、木をくりぬいて作った胴体の両側に革が張ってある。チャングはあぐらで座った上に抱えるようにして演奏する。左側の面は牛革で作られ、右側の面よりも少し大きく、皮も厚く低音が出る。右側は馬の皮で作られ、若干小さく皮も薄くなっている。

運動会での伝統「魂 SEOUL」の演技

「魂 SEOUL」は、日本人学校に代々伝わる演目。構成は、「越天楽（中国）」「アリラン（韓国）」「エイサー（沖縄）」「よさこい節（高知）」「おわら盆踊り（富山）」「八木節（群馬）」「佐渡おけさ（新潟）」「ソーラン節（北海道）」「イムジンガン（朝鮮）」の楽曲から構成されたダンス。今年度の4年生のテーマ「世界にはばたけ4年生」に合致した演目で子どもたちも主体的に取り組むことができた。それと同時に、韓国や日本、そして中国の楽曲を体で存分に味わうことができた。

3. 実践を通しての子どもたちの振り返り

- 僕は今まで韓国のことがあまり好きではなく、知らないことが山ほどありました。なぜ好きではなかったかということ、日本が嫌いな人が怖いと思ったからです。でも実際は違いました。韓国の良いところは山ほどあったのです。日本と韓国が仲良くなるには、今年やってみたいに行動することが大事だと改めて思いました。これからも韓国の良いところをたくさん見つけていきたいです。
- 1年間、韓国のことについて調べました。韓国のことに興味をもっていなかったのに4年生になってその気持ちが一気に変わりました。こんなに一生懸命やってきたので、僕たちの活躍で少しでも韓国と日本が仲良くなってほしいです。そんな気持ちでいっぱいです。こんなことができるのは、僕たちだけだと思います。僕たちは、それほど韓国と日本が大好きだからです。
- 私は、1年間韓国のことを調べました。調べ始めたらもっと知りたいと思うようになりました。1年間を通して韓国のことはもちろん、パースや台湾などのこともたくさん知れたので良かったです。韓国と日本の仲が良くなるように私たちが頑張ったので、前よりは少し関係がよくなったのではないかと思います。韓国の人は、本当に親切だから、この先どんなことがあっても韓国の良さを発信していこうと思います。1年間この学習を通して、韓国のことが4月よりも100倍好きになりました。日本に帰ったら韓国の良さをみんなに教えたいと思います。
- 私は、はじめ韓国のことが怖くてあまり好きでなかった。しかし調べ学習を通して少し韓国のことが好きになった。また、韓国で意識して生活していると、韓国のおばさんが電車やバスで席を譲ってくれたり、いつも優しく話しかけてくれたりしていることが多くあるとわかった。韓国は、お年寄りや子どもたちをとてもやさしくしてくれる国だと実感してさらに素敵な国だなと思った。
- 総合の学習を通して、韓国の印象がよくなりました。また、初めて知ったことがたくさんありました。今まで知らなかったことを知ったときは「韓国ってこんないいことがあったんだ」と思いました。この1年で韓国について詳しくなれてうれしかったです。もし、この学習をとおして韓国と日本が少しでも仲良くなれたらうれしいです。5年生になっても、大人になっても韓国や日本、他の国の良いところをたくさん見つけていきたいです。
- 最初（4月）のころは、韓国の良さはあまり知らなかったけれど、交流や調べ学習を通して、少しずつ分かってきました。早く日韓関係がよくなってほしいです。しかも今年僕は日本に帰るので、韓国の良いところを日本のみんなに伝えたいです。また、日本に帰ったら日本の良いところをたくさん見つけていきたい

です。

4. 終わりに

ソウル日本人学校に通う子どもたちは、保護者を含め様々な環境で生活をし、様々な考えを持っているのが現状である。そこで、どちらが正しいとかどちらが間違っているかを白黒つけるのではなく、互いの考えを認めることが大事だと感じた。このことは国際理解の基本でもある。またこの考えは、これから世界に羽ばたいていく子どもたちにとってとても大切だと思い今回研究のテーマを「子どもたちが、様々な国の文化、国籍にとらわれず理解し支えあい、認め合えるような環境、関係を構築するために」に設定し研究を進めてきた。

子どもたちの感想を見ると、韓国の国の文化や習慣など様々な良さを知ることができたように思う。やはり自分たちで実際に調べてみたり、体験したりすることが非常に大事だと感じた。この3年間、子どもたちはもちろん、私自身も韓国にどっぷりつかり韓国のことがよく知れたと思う。そして何より、私自身がこの韓国のことがとても大好きになった。また調べたり、韓国で生活してきたりしたことによって、韓国の人たちが日本に対してなぜこのように思うのか、なぜ日韓関係が悪化しているのかも少しだが分かった気もする。

この経験が子どもたちの世界の見方・考え方に少しでも良い影響を与えてくれればと願っている。さらに、これらの経験を胸に将来世界へ羽ばたいていってほしいと願っている。